

今後の「がん対策」に関し、
重要と考えられる視点や課題

がんになっても守られる自分らしさと尊厳

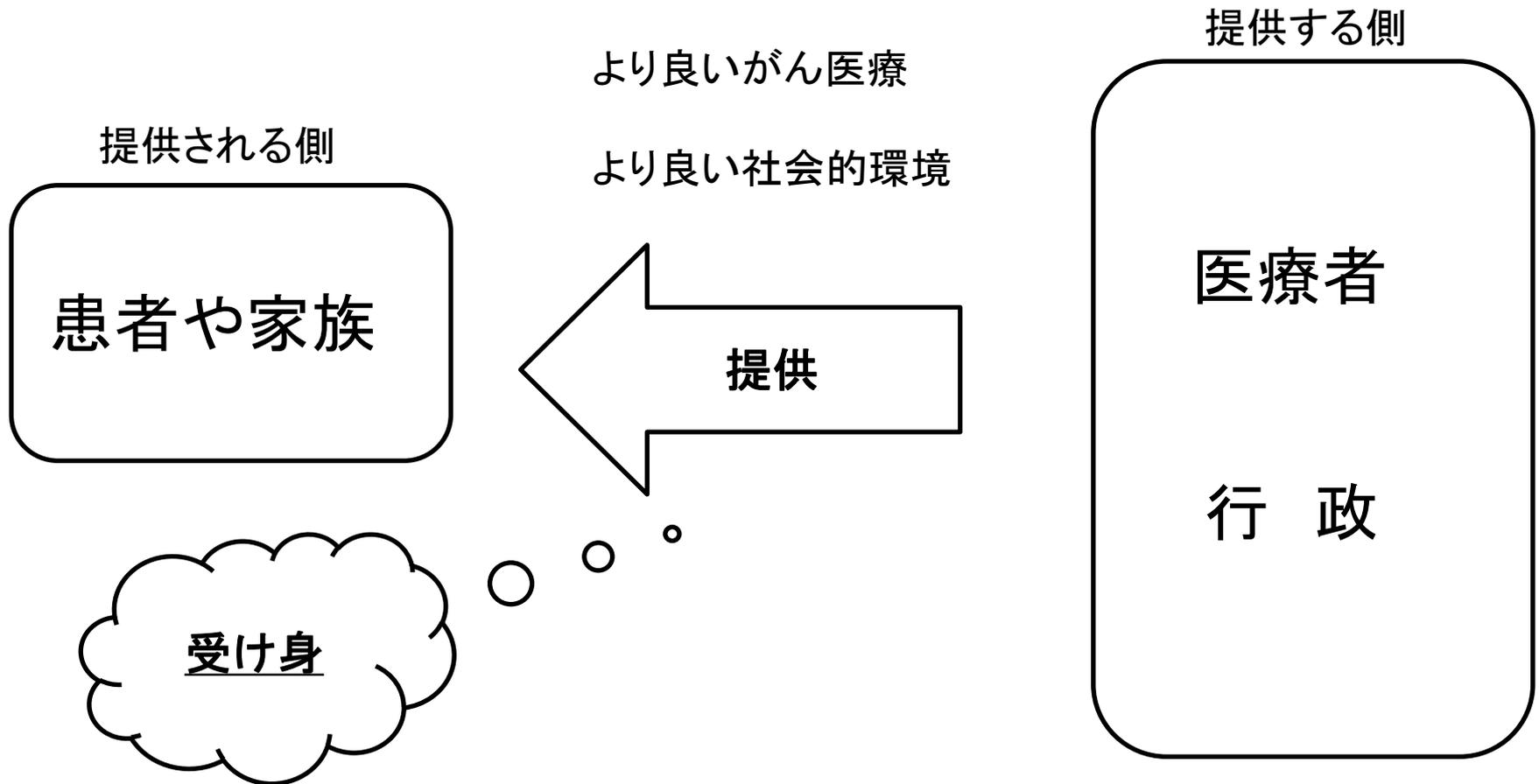
上記の視点や課題について、
求められる取組やなすべき議論

常日頃から、がんに対する国民自らの意識向上を図る

発表者：緒方 真子

神奈川県立がんセンター患者会『コスモス』世話人代表

「がん対策推進基本計画」の内容



常日頃から、がんに対する
国民自らの意識向上を図る

患者自身にもできる
こと、しなくては
ならないことがある
のではないかと？



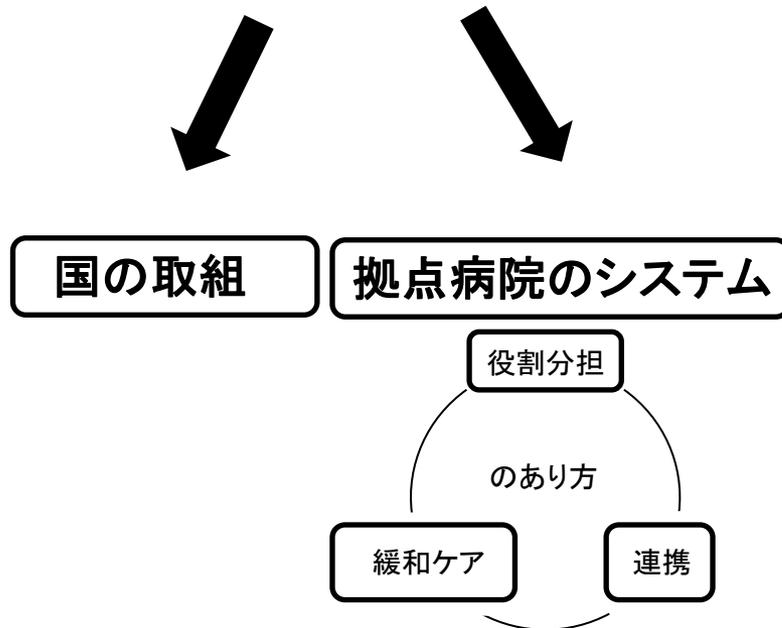
自分らしさと尊厳

国民のがんに対する意識の現状



残念ながら多くの国民に届いていない

がん対策推進基本計画



がんと診断された時

患者の心境

落胆

困惑

恐怖

悲嘆

事例紹介

- ①緩和ケアに対する誤解
- ②医療連携で見放された？！
- ③在宅医療や介護に対する
認識不足
- ④余命告知に生きる力を失う

国民自らが賢くなること

〔がんについて関心を寄せ、
自身のこととして心構えを持つ〕



国の取組／がん医療システム
を知る



相談支援の窓口



国民個々の価値観、人生観、死生観に
即した尊厳のある治療の選択や命との
向き合い方に繋がる

患者や家族が
がんを経験して感じる

生きる喜び

家族の愛

人と人とのつな
がりの大切さ

「自分らしさと尊厳」
が守られた
医療と社会環境

から生まれる思い

これからのがん患者さんや
ご家族のために何かできな
いだろうか？

⋮

そんな思いを持てる、患者や家族が増えてほしい